

2022.11.20 逆境を生き抜く

第一ペテロ 5章5節～9節

JD ファラグ牧師

天なるお父さま....主よ、あなたがどれほど偉大であられるかを考えると、喜びの涙を流さずにはいられません。私たちは、ただ歌っているのではありません。主よ、歌っている私たち全員にとって、すべて意味があるものであることを祈ります。主よ、あなたは偉大です。あなたは偉大です。あなたは偉大です、主よ。主よ、この時間を祝福してください。主よ、この教えを祝福してください。この牧師、JD 牧師をこの地上に遣わして下さったことを主よ、心から感謝します。彼が、あなたの御力の上に立ち続け、あなたから聞き続け、主よ、あなたが与えられた勇気で御言葉を語るよう祈ります。再度、この時間を祝福してください。感謝します。聖霊様、どうかお語りください。イエスの御名において。アーメン、アーメン

おはようございます。ようこそ着席してください。オンラインで参加の方も歓迎します。一緒に参加してください、とても嬉しいです。お二人、こちらへ来て下さい。とても、とても、とても特別なゲストをご紹介します。こちらはエド、エディと呼んでいます、エドとラモーナ・スコットです。

聞いてください。ここにいる、この人は、同じ高校に通ってました。ええ、内緒ですよ。

(会衆：そんな昔じゃないですよ。) そう、その通りです。私たち、5歳でした。彼は1978年、私は80年に卒業し、卒業後、私たちはワシントン州のスポーケンに引っ越しました。ルームメイトだったんです。これはすべて、クリスチャンになる前の話です。話すのを許して欲しいですが、まさに神のご栄光です。私たちは追い出されました。いや、本当です。最初は、アパートでルームメイトだったのです。そのアパートのすぐ近くのレッド・ライオン・ホテルで皿洗いの仕事を紹介してくれたのも彼です。そうそう、慎ましい始まりでした。そのアパートで同居していたのですが、私たちがパーティーばかりやっていたので、追い出されてしまったのです。それは控えめな表現ですね。それで引っ越して、ある家に住んだのですが、その家からも追い出されたんです。なぜかというと、友達たちが来て、ある晩パーティーをして、隣の家の人が、この話はこの辺にしておきます。半年で二カ所から追い出されたんです。ええ、記録的だったと思います。長く住めませんでした。敷金もだいぶ失いましたが、しかたありません。これは、1980年から1981年ですね。エディと話してたのですが、彼は高校のスポーツイベントで、応援のドラムを担当していました。マイクを持って司会をしていたのは誰だと思います？ (JD 挙手)

だから、神は私たちを見下ろして、言われたのだと思います。

「ダメダメ。降りて行って、彼らは救わなければならない。」それは、2人のパーティー狂いのため、聖なる同情と憐れみでした。そして今日、私は同じようにマイクに向かって立っています。エディはアイダホ州ボイシの教会で賛美チームのドラマーをしています。エディと素敵な奥様、ラモーナが来てくれました。話が前後しますが、40年以上の友です。とにかく、私の親友を紹介したかったのです。一拍手喝采ーこちらへどうぞ。なんということでしょう。長い間、楽しみにしていました。神にしか御出来になられません。ワシントン州小さな町テコアの2人の男。誰も聞いたことがないような町。運転中、まばたきすると見逃してしまうような町です。あ～、まさに神はすごいですね。他にも、同級生や友人でキリストに出会った人が何人かいます。何年も前に、その小さな町に神が引っ越して来られたような感じです。お分かりできたことに感謝します。皆さんにとっても、祝福となることを願います。始める前に、お伝えしますが、今週の木曜日は、もちろん感謝祭です。もうこんな時期なんですね。そのため、週の半ばの聖書の学

びはお休みし、翌週から「エレミヤ書」の素晴らしい学びを再開します。念のため、お知らせしておきます。ということで、今日の聖書箇所は、「第一ペテロの手紙5章」です。先週の続きで、5節から、ず〜っと最後まで〜いや、9節まで進みます。では、可能な方はご起立をお願いします。私が読むのに、ついてきてください。無理な方は座ったままで結構です。使徒ペテロは、聖霊によって、5節からこう続けます。

—I ペテロ 5:5—

同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。...

ええ、はい。もう一度、読んでいいですか？ —(笑)— 失礼。

...みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

—I ペテロ 5:6—

ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

—I ペテロ 5:7—

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

—I ペテロ 5:8—

身を慎み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、吼えたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。

—I ペテロ 5:9—

堅く信仰に立って、この悪魔に対抗しなさい。ご存じのように、世界中で、あなたがたの兄弟たちが同じ苦難を通ってきているのです。

祈りましょう。よろしければ一緒をお願いします。

天の御父よ、御言葉とこの時間を感謝します。この時間は、私たちが信者の体として集まり、交わりと礼拝、そして今あなたの御言葉の中で共に過ごす私たちの時間です。しかし、主よ、聖霊がここにおられ、私たちの教師、導き手となってくださらない限り、私たちが共に過ごす時間は無駄だと十分認識します。それを望む者は、ここにいる人、オンラインで参加の人の中にも誰一人いません。

主よ、私たちが一緒にいる時間、あなただけが御出来になられる通り、そしていつもとてもご忠実であられるように、あなたの御言葉を通して、私たちの人生に語りかけください。主よ、必要なら大変個人的に。そうなさる時、あなたはいつも、とてもお優しいです。私たちの心の奥底に自由にアクセスしていただき、あなたが私たちの心で調べられたいどんな場所でも私たちの人生で対処なさりたいどんな分野でもあなたの指を置いてください。また、優しい方法で、厳しいご方法ではなく。ですから主よ、今日の私たちの時間の中であなたがなさろうとしていることに前もって感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。では今日は、逆境について、話したいと思います。特に、終わりの時のクリスチャンとして、逆境を生き抜くために、さらには成長するためにできることです。

今日、私たちの前にある御言葉箇所は、ペテロが、当時の初代教会の信者に警告しています。それは私たち、今の終わりの時を生きるクリスチャンにも言えることで、私たちに敵対する全てについてです。そう

することによって、私たちが無力でも絶望的でもないことを思い起こさせます。聖霊が、ペテロを鼓舞して、第一の手紙に書かせた詳細は、もうほとんど学び終わりますが、主の御心なら、来週、5章を終えるでしょう。約束はしませんよ。分かるでしょう？ 決めつけないでくださいね。もちろん「第一ペテロの手紙」の次に一節ずつ見ていく書は、ご存知ですよ？ ありがとうございます。「第二ペテロの手紙」です。奥深いですね。待ちきれません。第二ペテロ、わお～！！ ここ「第一ペテロの手紙」この書簡の締めくくりは、具体的に、葛藤、懸念に焦点を合わせています。というのも、初代教会の信者たちは、強烈な迫害と苦しみの中にいたからです。当時のクリスチャンがどれほど生々しい世界に住んでいたかを、思い起こした方が良いでしょう。ローマ皇帝・ネロの時代です。このクリスチャンたちの多くが、使徒ペテロからのこの靈感に満ちた手紙を受け取るのです。この初代教会のクリスチャンの多くには家族がタールに浸された後、杭にかけられ、火をつけられ、皇帝ネロが戦車に乗って、同性愛の恋人たちと走り回り、また生々しくて申し訳ないですが、彼らをあざけり、嘲笑し彼らに言います。

「ほら世の光だ～クリスチャンよ～」そして生きてそのまま焼かれる。彼らは動物の死骸の内臓を取り出し、くりぬいて、クリスチャンを中に入れ、コロッセオのスポーツ競技場に投げ入れました。そしてスポーツとして、ファンたちは、言葉は悪いですが、病んだ人たちが、その死骸の中のクリスチャンたちを、野獣が食い尽くすショーを見て楽しんでいました。それが、初代クリスチャンたちが生きていた世界です。この事を理解し、そのレンズを通して見ると、今日、私たちの前にある箇所の様相が一変します。

このような詳細を伝えるのは、正直言って仕方ないことで、この節を他の聖句と同じように扱うと、大きな間違いを犯すことになるからです。実際、私たちはこの聖句をただ読み過ぎて先に進んでしまうなら、罪悪感を覚えるべきです。そんなことはできません。ここには、多くのことが書かれています。それで実は、今日の教えの準備を2つに分ける事を主に尋ねたほどです。しかし、一度で進めることにしました。ですから、今日の午後3時くらいまでかかると思います。ちょっと、冗談です。

では、腕まくりをして取り組みましょう。準備はいいですか？

ここにあるのは、5つ以上の方法です。皆さんはもっと見つけるかもしれませんが、私は5つを見つけました。私たちに襲いかかるあらゆる事から生き抜き、生き残るだけでなく、それに立ち向かい、成長するための5つの方法です。

では、1つ目は5節ですが、これはデカイです。どれもデカイですが....。

「謙虚になり、自分を最も低くする」

ここでペテロは、長老から言わば若者に目を向け、「箴言 3:34」を引用し、神から与えられた権威に服従することについて述べています。その理由は、権威ある者に、主に従うように従わねばならないからです。彼らは尊敬されるべき存在なのです。それは、「しもべのエプロンを身に着けること」説明します。理由は、ペテロが「謙遜を身に着けなさい」と書いている理由は、当時の文化的なことを話しています。一番身分の低い者が、人の足を洗うためにエプロンをまとうのです。これは、イエスが模範として行われたことです。実際、ペテロが、人々皆、このことについて知っていました。お付き合いください。

覚えていますか？ イエスが、タオルとたらいを手にとり、謙遜のエプロンを身につけ、神が床に跪かれたのです。これは世界の救世主ですよ！！ これは神の子です！ イエスはへりくだられ、しもべの姿になって、弟子たちの足を洗おうとされています。そして、主はペテロのところに来られます。ペテロはどうしたのでしょうか？ 「しないでください。」そんなことはいけません！」(ヨハネ 13:8 参照)

「決して、私の足を洗わないでください。イエス様。私があなただの足を洗います。」

さて、正直に言いましょ。それはプライドです。でしょ？ ペテロは、何年も経ってから、謙虚さを身につけることについて話していますね。では、イエスはペテロに何と言われたのでしょうか？

「ペテロよ、聞きなさい。わたしにあなたの足を洗わせないなら、あなたはわたしの王国に関係ありません。」

そして、これがペテロの人柄で好きなどころです。この人たち、個性的だったのです。ペテロの手紙を読むと、とても悲劇的な気持ちになります。福音書には他の弟子たち全部を合わせたよりもペテロが多く出てきます。あの人たちは、皆さんや私のような生身の人間でした。そして、彼らには個性がありました。彼らは気性が荒く、彼らは.....つまり、数え上げればきりがありません。これがペテロの人柄です。イエスが彼に

「わたしにあなたの足を洗わせないなら、あなたは私の王国に関係ありません。」と仰ったあと、ペテロが何と言ったか？ 彼は極端な性格でした。

「おお、わかりました。それなら私の全身を洗ってください。」(ヨハネ 13:9 参照)

「いや、ペテロよ、そこまでする必要はありません。あなたの足を洗うだけでいいのです。」

理解してほしいのは、これは最も卑しい、汚れた行為だったのです。さて、私たちの文化、この島では、日々、それを見ますよね？ だって、みんなスリッパを履いているからです。決して"flip flops (ビーチサンダル)"とは呼ばないでください。(flip flops は日和見主義の意味がある)

私は、早くからその間違いを犯しました。イエスの御名によって正され、叱責されました。

「な～んだ、本土から来たの？」(現地訛り) ビーチサンダル (flip flops) だって～。じゃあ、スリッパ。だから、このスリッパを履いています。私いけてます？ ー(笑)ー ありがとうございます。ありがとう兄弟、愛してるぜ。足は汚れるわけですよ。これは、当時も今も、中東の文化です。体の中で一番汚れているのは足です。というわけで、これはひどい...家に迎えた仲間やお客さんには、絶対に足の裏を向けません。足置きや、リクライニングチェアに足を乗せると侮辱になります。私はいつもそうしてますけどね。基本的に一番汚い部分、足の裏を置くわけですから、侮辱になります。体で一番汚い部分です。

ですから、イエスがされたこと、そしてペテロがここで言っていることは、体の最も汚い部分を洗うという、低い位置、謙虚な位置につく意味なのです。それは、服従の象徴・姿勢です。それが謙虚さです。

そして、これは次の6節と重なります。「神のもとでへりくだる」これは、いくつかの理由で非常に興味深いのですが、特にその具体性が重要です。どういう意味ですか？ はい、ペテロは「謙遜になりなさい」と言っていることに注目してください。前の節で「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」と述べたばかりです。つまり、神は高慢な者から離れられます。しかし、謙虚な者に恵みをお与えになります。なぜか？ 神ご自身が謙虚でいらっしゃるからです。高慢は謙虚さに近づけず、反発します。反発します。謙虚さに惹かれておられ、高慢には反発なさいます。ですから、主は高慢な者に仰います。

「わたしから離れなさい。わたしには関わりがありません。わたしは柔和で謙虚であり、わたしには無理です。」

謙虚になる。さて、ペテロが引用したこの「箴言」は、謙虚さ、へりくだることについてが至る所に溢れています。「**主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます。**

(ヤコブ 4:10)

という格言を、私は個人的に使っています。私は、それを個人用にしました。つまり、

「JD、謙虚になりなさい。神があなたのためにそれをなさる必要がないように。」

ええ、それは、ペテロがここで言っていることです。謙虚になりなさい。神にあなたを謙虚してほしいですか？ いいえ！！ お～神は、何度私を謙虚にしようとされたことでしょうか。謙虚さとは、こうです。それは、とても...私たちは、謙虚さを誇ります。でしょ？ 私たちは、高ぶりに謙虚です。これは私たちにとって難しいことです。謙虚になる。それは、私たちの罪とアダムの性質の中に生来備わっているすべてに反します。自分を謙虚にすることに抵抗があるのです。なぜなら、私のお決まりは、自分を謙虚にすることではなく、自分を高く上げることだからです。ペテロは、このことについて知っていましたよね？ 福音書の中で、神は何度、彼を謙虚にされたのでしょうか？ なんと屈辱的で、これは興味深いです。謙虚さ → 屈辱的。聖なる意味では、私たちが自分を高く上げようとするたびに、屈辱的で恥ずかしい思いをします。ペテロはこの「箴言」を引用して、神はへりくだる者に恵みを与えろと言ひ、何かを教えようとしています。神は、へりくだっている謙虚な人を上げてくださるのです。そして、もしあなたが自分を偉大な者と思っているなら、どうなると思いますか？ 高いところにあがると、下るしかありません。そして逆に、低く謙虚な場合は、上がるしかないのです。そうなるのです。クリスチャン信仰の逆説です。神の民である私たちは、早くこの逆説に慣れた方が良いでしょう。

「上る道は、下る道」生きていますか？ では（自分に）死ぬ。自分自身に死ぬのです。あなたの十字架を負いなさい。自分を否定しなさい。私たちは、そこに問題があるのです。なぜなら、またしても、私の中の、私のすべてが、そのことに苛立つからです。

「私は自分に死にたくない。自分が大好きだから、自分を大切にしたい。自分が人生で一番大切な人間だ。」事実、汚れた三位一体です。「私を、私に、私が」それが問題なのでは？

ある人がうまく指摘している通り、「私 (I)」という文字は「プライド (pride)」のド真ん中にある。

また「罪(sin)」という文字のド真ん中で、そして「私 (I)」は、「ルシファー」/Lucifer という名のド真ん中です。彼は言いました。

「私は、神の星々のはるか上に私の王座をあげよう。」(イザヤ 14:13 参照)

「私 (I) はそうする。私 (I) はそうする。(I) アイヤイヤイヤイヤ～」「私 (I) 問題」です。「私 (I)」が問題なのです。「私 (I)」が謙虚でなければならないのか？ いや、まずあなたが謙虚になる必要があるんだ。」ご主人方、奥さん方、その関係はわかるでしょうか？ ですから、私たちは互いに従い、年少者は年長者に従うのです。奉仕と謙遜のエプロンを着ることで、私たち全員が互いに従うのです。そして私たちは、神のもとで謙虚になる。なぜ、そんなに重要なのか？ なぜなら、このことについて考えてください。あなたが、激しい苦しみや苦悩、逆境を経験し、どん底にいるとき、神は、あなたに恵み深くあられます。神の恵みが必要なときがあるなら、それは逆境の時です。誇り、高めたりするのに、一番マズいのは逆境の時です。なぜなら、恵みがないからです。神が望まれないのではなく、神は御出来にならないのです。私は困難な時、人生の試練に遭遇した時、こう祈ります。

「神様、私を憐れんで下さい。ああ、神よ、私を憐れんでください。」

神は、「そうしたいのです。でもできません。あなたが高慢になっているためです。謙虚になりなさい。そうすれば、わたしはできます。」

私たちが、神の恵みのロープを縛っています。神の恵みの御手を、プライドのロープで縛っているのです。私たちはプライドのせいで主の御手を縛っているのです。

最後にもう1つ。その後、次に進みます。どうかもう一度、一緒によく考えてみてください。私はお尋ねしたいのですが、私たちの生活におけるあらゆる問題、葛藤、課題の、すべての層をはがすと、その核にプライドがあるのでは？ プライドです。ヤコブに尋ねてみましょう。「ヤコブの手紙」を一節ずつ学びましたね。皆さんの間で、争いや喧嘩が起こる原因は何ですか？ プライドです。以下はその例です。以前、この話をしたことがあります。繰り返すのは良い機会かもしれません。これについて、夫婦関係に焦点を当てましょう。夫婦で言い争いを続けるのは、どれほど辛いです。ところで、理解してください。私と妻とは、ある人が言ったように、ただ激しい交わりなだけです。牧師と妻として、言い争うことはありません。とにかく、皆さんが.....もちろん私ではなく、結婚生活で言い争いして、非難し合っています。「私ですって？ あなたはどうなのよ。」それって、目くそ鼻くそを笑う、では？ どちらかが謙虚になってこう言ったら、その争いは続かないのでは？ 「あのね、ハニー？ 君の言うとおり。ごめんね。」まあ、相手は驚いてあなたを見るでしょう。「へ？ 何があったの？ どこに行った？ 私の夫はどこ？ 私の...あなたは誰？ もしくは、何が欲しいの？」そうでしょ？ あなたらしくないから。つまり、散々言い合っていて、なぜ、言い合いするのか？ しかもエスカレートするでしょう？ 問題の悪化と高ぶりは、同居します。プライドが高いからエスカレートします。プライドは、相手よりも自分を高く評価する考えです。

「あなたが私にそんなことする権利はないでしょ！？」「おお、知らなかった。ごめん。」ふさわしくありません。それがプライドです。自分を高くあげています。謙虚になり、下に下ることで、より高い所に行くのはどうですか？ 足を洗うより、夫が皿洗いをしろってことです。私自身にトラブルを招きそうです。罪を示されました。7節、先に進みます。時間を考えてください。時計を見てくださいよ。一(笑)一「思い煩い全てを、いっさい主にゆだねる」

これは巨大です。私には、ペテロがここで書いている、恐れや不安に関する重要性を、誇張しすぎることはないでしょうその理由はこうです。恐れや不安は、クリスチャン人生で、最も破壊的で落ち込ませる逆境の中にあります。つまり、落ち込んでいるときに、内からも外からも、一番攻撃されやすいのです。これについては、もう少しだけ詳しく説明します。それでペテロは、繰り返しますが、ペテロが書いていることの共通点は、イエスと一緒にいたときの彼自身の個人的経験です。まだ彼が若かったころです。彼は不安をたくさん抱えていました。ここでも彼の性格の話をして。恐れを感じやすい人、不安を持ちやすい人がいますよね。ペテロはとても不安だったと思います。つまり、彼の言動の多くに不安や恐れが表れています。だからこそ彼は、その重要性を語る事ができるのです。それが絶対に破壊的なものだ。なぜなら、逆境や困難や苦難や痛み、苦しみや迫害を経験している時、不安がさらにあなたを追い詰めるのではないですか？ ちなみに、これからお話しますが、敵はこのことを知っています。敵は、私たちがどう配線されているのか知っています。ある意味、私たちが自分のことを知っているよりも、敵の方が私たちのことをよく知っていると言えるかもしれません。そして敵は、私たちの生活の中で、私たちに不安にさせる部分を知っています。これから見るように、敵は、獲物を狙う獅子のように、私たちが最も弱い、その瞬間に飛びかかります。恐れは、生理学的にも、私たちの体のすべてのシステムに壊滅的な影響を与えます。神経系、消化器系、循環器系、体内の、あらゆるシステムが悪影響を受けます。使徒パウロが、「ピリピ人への手紙4章6節から8節」に、「何も思い煩わないで。」と書いているのはこのためです。その方法はこうです。「あらゆることを祈り、あらゆることを神に感謝しなさい。」「そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

それは、平安の神からの神の平安で、不安や心配を治します。私たちは心配についてたくさん話してきました。私は率直に、もしかしたら不愉快なほど自分がプロの心配性であること、回復しつつある、心配性狂いだと、話してきました。もちろん、私は勝利の中を歩んでいます。知っておいてください。でも、私は本当に心配性なんです。心配性の博士号があります。自分の心配がなくなったら、あなたのために何か心配できることはないかと聞くくらい、心配が得意です。何か心配させて下さい。ある人が言ったように、それはロッキングチェアのように、何かを与えるけれど、何も得られない。それが心配と不安です。さて、ペテロはなぜこのように、いわば再び角を曲がり、謙虚さについて語ることから不安について語ることにしたのでしょうか？ ええ、これが考えです。このクリスチャンたちが、どれほどのストレスを抱えていたか、想像できますか？ プレッシャーの激しさ。次は自分たち、友人、家族、恋人、兄弟、姉妹、母親、父親、叔父、叔母の番なのか？ その環境下でのストレス。そうやって迫害される。その不安が付きまとう。決して想像しないでください。これは問題です。キリストにある兄弟姉妹と不安を分かち合う人はいないからです。「お～あなたの信仰は？」と言われるでしょうから。

「まあ、あなたは成熟した敬虔なクリスチャンだと思ってたよ。私は恐れと闘うことはないしね。」
ええ、あなたはプライドで苦しんでいる。それがあなたの苦しみです。そう、なぜなら、今、突然、この分野で苦勞していることをあえて話すと、あなたは劣っていると見なされます。そう判断されます。でしょ？ 違いますか？ あなたは表面だけ取り繕って教会に来る。(作り笑い)

「お元気ですか？」「私はとても祝福されています。」いいえ、そうではありません。あなたは恐れと不安でいっぱいです。正直になりましょう。ちなみに、それは顔にも表れています。惜しいですね。(必死の笑顔) 絵文字のスマイルが効きません。絵文字のテキストにこだわりますが、それで、あなたはここで、今はただ、恐れと不安でだらけて、満載で、神はこれを知っておられます。神は驚かれません。想像できますか？ 「おお、そんな、J.D.、何？ また不安がってるの？ 心配するなど何度言ったらわかるの？」

いいえ、主は知っておられます。聖書の中で「恐れるな」という言葉が何度出てきますか？ なぜ神は誰かに、「恐れるな」と仰られるのでしょうか？ 改めて意味深ですね。彼らは恐れでいっぱい、神が力強く用いられる男性女性が、不安と恐れでいっぱいだったのです。それで、神は私たちに何かをしてほしいと願っておられます。主は私たちに何を望んでおられるのか？ 主は私たちに「委ねる」ことを望んでおられます。ちなみに、この「委ねる」という言葉には、重い重荷を背負って、それがあなたを苦しめ落ち込ませている意味です。不安や恐れがそうさせるのです。あなたはそのようなものを背負っていますが、神は仰られます。

「あなたがそれを降ろして、投げ捨て、わたしに委ねなさい。」

なぜなら、**「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」(マタイ 11:30)**

主の命令は重荷にならず、上からの知恵は聞き入れやすいからです。わたしのくびきは軽いのです。すべて疲れた人、重荷を負っている人、恐れや不安が重くのしかかる人は、わたしのもとに来なさい。

(マタイ 11:28 参照)

それをわたしのところに持ってきて、わたしに投げ、委ねなさい。わたしはあなたを気にかけているから、わたしがあなたのためにそれを運びます。「そうなのですか？」ええ。そして、要点は、私たちはいつの間にか、この嘘を信じてしまっています。これは偽りの父による嘘で、

「神はもっと大きな、もっと重要なことをなさるんだよ。神は全宇宙を支配し、全惑星を救わなければならないからね。だから私にこんな問題があったって、、、」

いいえ、主は気にかけておられます。主は見ておられ、知っておられ、気にかけておられます。この3つ共です。主は、私たちのようにただ見ておられるわけではありません。本当に苦勞している人を見かけると、その人が本当に苦勞しているのがわかるから、そこで止めてしまいます。私たちは気にかけません。私たちは神ではありません。主は気にかけておられます。主は私たちを愛しているからこそ、私たちを大変気にかけてくださいます。そして、主は私たちに仰られるのです。

「それをわたしのところへ持って来なさい。わたしはあなたをそんな重荷を負うように設計していません。わたしは、あなたが不安でいっぱいになるよう意図していません。そして、言うなれば、主がそれを個人的にどう受け止めておられるのか考えてみてください。なぜなら、私たちが心配したり、恐れたり、不安でいっぱいになったときに送るメッセージを知っていますか？ 私たちは、

「主は私を大事にしてくださらない。」と言っています。そして、私たちは基本的にこう言っています。「神であるあなたを信頼していないので、自分のことは自分でやります。」

先日、こんなことを考えたんです。私たちは、誰かに向かって「ねえ、自分を大事にしてね。」と言うことがありますよね。それは間違っていると思います。理由は、実際、私たちの命を大事にするのは、私たちではありません。自分が自分自身を気にするものではありません。そうではなく、主が私たちのことを気にかけてくださっているのです。そう、もし私がこの世の心配事や事柄で重荷を負っているなら、私は落ち込んでいくでしょう。神は「何をしていますのですか？」という感じです。自分の話をします。私が犠牲になりましょう。いいですか？

「JD、何をしてるのですか？」

「ああ、主よ、それは主の重荷です！」

「どうしてですか？」

「わかっているんです。重苦しく、重荷で、激しくて、辛いのです。」

「そうなる必要はありません。なぜ、あなたはそれをわたしに委ねないのですか？ ちなみに、わたしは支払いました。それで、あなたがどうするんですか？」

私たちがするのはこうです。お～私たちはとても賢いですよね？

OK。では、主に捧げるのに、私たちは主の下へ行きます。

「主よ、ここで私はこれをあなたに委ねます。あなたは私からこれを取り去り下さい。」

そして、その場を立ち去り、あとで裏口からこっそり持ち帰ります。頼みますよ。そんな目で見ないでください。何の話かわかりますよね？ 私たちはそれを取り戻して、また心配し始めます。

すると神は「何？なぜ、こんなことをするの？ それはあなたがわたしに捧げたものだと思っていました。あなたはわたしにそれを委ねました。なぜ取り戻すのですか？」「わかりません。」

私はバカなんです。それが理由でしょう。－(笑)－

もう1つ言わせていただいて、次に進みましょう。「どうか先に進んでください。」と仰る方もいらっしゃいます。不安になる1分は、無駄な1分です。同じことを別の方法で言います。心配したり、恐れたり、不安を感じたりして過ごす1分は、無駄な1分です。絶対に不要です。やめてください。それを主に捧げて、取り戻さないでください。よろしい。気分が良くなりました。皆さんにもそうしてほしいです。

次に進みましょう。

8節、4つ目です。

「自制し、警戒する」

当然だと思われるでしょうが、この件に関してほんの少し時間を割く必要があります。つまり、私たちに世と肉と悪魔がいます。この3つが互いに連携していて、私たちに敵対します。つまり、世が私たちに敵対し、肉.....それだけでも。しかし、そこに悪魔が加わります。そしてさらに悪いことに、それで十分悪くなければ、この悪魔は、捜し回り、吼えたける獅子に例えられています。さて、ペテロが思い浮かべたのは、この人喰い獅子はないでしょうか。忍耐強く、急ぎません。彼らはただ見て、つきまとい、待っています。彼らは獲物を研究します。それが敵のやることです。第二次世界大戦の古い映画や写真で、軍事監督者たちが机上に身を屈め地図を前に軍事戦略を練っているシーンがありますよね？それが敵が私たちにしている事です。敵は戦略的に、忍耐強く私たちのクリスチャン生活の地図を研究し、攻撃する最適な時と領域を探し、攻撃をしてきます。そして、獅子のようにつきまとい、研究し、待ち続け最適な時が来たら襲い掛かります。その時はいつか？ 私たちが警戒していない時、見張っていない時です。そして敵が私たちに攻撃する時、獅子と同様、私たちが食い尽くす性質があります。では私たちはどうすればいいのか？周到にする事。周到とは、円で、あなたの周りすべてを意識することです。いつも見張る。甘く見てはいけません。パウロは言います。

「サタンの策略に無知であってはならない」

思うに、クリスチャンとして、私たちは両極端になってしまい、どちらも私たちにひどく混乱させます。ある意味では、私たちは悪魔が強過ぎると思いついて、そして反対側では、悪魔は大したことないと思ってしまう。一方で敵の力を過大評価し、もう一方で敵の力を過小評価するのです。バランスは真ん中にあります。どういう意味ですか？まず第一に、悪魔は神の対極ではありません。彼は全知でもなく、全能でもなく、偏在しません。ちなみに、ネタバレですが、悪魔でさえなく、悪霊でしょう。悪魔は、同時にどこでも偏在できないからです。神だけが遍在なされます。今度、あなたが、あるいは誰かが、「今週は、本当に悪魔にやられたよ」と言うのを聞いたら、「悪魔があなたを攻撃したのですか？うお～～マジ？悪魔ですか？ほ～私はふさわしくありません。」

つまり、悪魔には、もっと大きな獲物がいます。ですから、悪魔の仕業なら価値の高いターゲットに違いありません。そうじゃなく、悪霊。闇の力です。それについては、さっとこれから少しお話します。ですから、繰り返しますが、この逆境を乗り越えるには、目を覚まし、警戒し、見張り、自制すること。そう表現している翻訳もあります。私たちをつけ狙う敵がいることを常に意識する。私たちが恐れてはいけません。

「私たちのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。」(I ヨハネ 4:4)

私たちはすでに勝利があります。しかし私たちは、不必要に、また私はこう言います。世間知らずで、敵がどれほど私たちにつきまとい、研究し、私たちに攻撃したいのか分かっていません。最後に、5つ目です。9節、

「悪魔に対抗し、堅く立つ」

ペテロがここで書いていることは、確かに初見では見逃しがちですが、私たちは一人ではないということをお出しさせてくれます。私が言いたいのは、私たちは正しくこう強調します。

「悪魔に対抗すれば、彼は逃げ出す。敵に対抗し、サタンに対抗する。」

しかし私たちは、ペテロがここで言う「あなたがたは一人じゃない。」という言葉で割り切っています。ちなみに、敵がうまくやるのは、残念ながら、そういう事ではないですか？敵は、私たちだけだと思わせられます。いいえ友よ、あなたは良い仲間です。世界中の兄弟姉妹が、あなたと同じような逆境、迫害

に遭っています。私たちの時代には、「同病相憐れむ」ということわざがありますよね。自分だけじゃないと思うと、何か安心するんですね。誰かが本当に辛い思いをしているのを知ると、「うわ～私だけが特別なのかと思ってた。」さて、時に神は恐らくあなたを懲らしめなければなりません。それはまた別の機会の別の説教ですが、ペテロが私たちに思い出させようとしているのは、私たちは一人ではないということです。同じような苦しみを味わっている兄弟姉妹がいるのです。ですからあなたは立つのです。兄弟姉妹が共に立っているからです。敵に対抗するために、彼らはあなたとともにこの戦いに立ち向かっています。なぜなら、共に立ち、お互いに立てば敵にやられることはありません。

では再度、獅子の話に戻しましょう。ペテロが悪魔に例えているこの獅子は、他の人たちがいる宿営の外の獲物が来るのを待っています。彼らを一人にして、「さあ行くぞ。」です。それが敵のやることではないですか？ 彼は、クリスチャンを、同じ苦しみを経験している兄弟姉妹から孤立させ、外で一人きりにさせます。彼らは教会に行きません。カモにされます。カモにされ、悪魔に広い範囲から狙われます。敵はただ待っていて、非常に忍耐強いです。そして、そのクリスチャンが、いわば群れから外れる羊のように、群れから外れるともう、ラムチョップです。ええ、ごめんなさい。ひどい描写ですね。－(笑)－

最後に、とても有名なもので締めくくりたいと思います。私は、率直に言わせて頂きますが、靈的な武具や靈的な戦いについて話すとき今流行っているのは、これだと思っています。悲しい事に、それはある意味、神聖なものを冒瀆し、世俗化し、傷つけています。何と云えば良いか、主のところへ持って行く必要があります。私個人の問題ですが。私の悩みはもう十分です。「エペソ人への手紙6章」について話しましょう。私たちは、これを「神の武具」と愛称します。神の武具を身につける。「武具をつけなさい。」しかし、締めくくる前に、皆さんに留意してほしいのです。「エペソ人への手紙6章」10節から始めましょう。

皆さんよくご存知ですね。

－エペソ 6:10－

終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

－エペソ 6:11－

悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。

この単語、好きです。そのまんまに聞こえる単語です。「Wiles of the devil/悪魔の策略」その理由、12節です。

－エペソ 6:12－

私たちの格闘（キーワード）は**血肉に対するものではなく...**

なぜ格闘が重要なのか？ なぜなら、原語ではこれが全面に出ていて、レスリングをご存知の方、全身の筋肉をフル稼働させます。それが全てで、とても消耗します。レスリングは、単なる戦いではなく、本当によく表しています。そう、ヤコブが神の祝福を求め、一晩中、主と格闘した時のことを考えてみてください。ここで神は仰られました。

「あなたを祝福したいが、まずあなたを砕かなければなりません。」そして彼のももの関節を打ち祝福されました。（創世記 32:25 参照）ですから、

－エペソ 6:12－

私たちの格闘は**血肉に対するものではなく、支配 (①)、力 (②)、この暗闇の世界の支配者たち (③)、また天上にいるもろもろの悪霊 (④) に対するものです。**

さて、なぜ私はここでパウロが区分する方法を強調するのか？ なぜなら、これらは靈的な領域の位付

けだからです。これらは闇の力の位付けで、一定の領域があります。力、権威、支配、靈的な軍勢がいます。彼らは皆、靈的な領域で位・権威があります。ですから、私たちは血肉で、兄弟姉妹と格闘することはありません。私たちが戦って格闘しているのは、靈的な領域の、これら 4 つの異なる実体に対してです。

ーエペソ 6:13ー

ですから、邪悪な日に際して対抗できるようにまた、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

邪悪な日とは、こんにちです。非常に邪悪な日にいます。

ーエペソ 6:14~15ー

そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。

特に 16 節に注目し覚えておいてください。後で戻ります。

ーエペソ 6:16ー

これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。

ーエペソ 6:17ー

救いのかぶとをかぶり、(唯一の攻撃的な武器→) 御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

その方法は、祈りです。

ーエペソ 6:18ー

あらゆる祈りと願いによって、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのために、目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。

OK。ではさっと言います。あまり深く入りたくありません。興味があれば、2018 年だったと思いますが、「エペソ人への手紙」の節ごとの学びで、この箇所を深く掘り下げました。実に力強いです。しかし、理解しなければなりません。帯がすべてを支えています。「帯が真理」なんと適切でしょうか？ 剣でさえ、帯に繋がっています。かぶとを使わないときは帯に付いています。胸当ては帯とつながっています。すべてが帯に繋がっています。それが「真理」です。全てを結束します。救いのかぶとはどうでしょう？ 敵は思考を攻撃してくるので、思考を守るのです。お～敵は思考を攻撃してくるのですよ。具体的に、私たちの救いに対する疑いの種を植え付けることによって、思考を攻撃します。ですから、あなたの思考を守る救いのかぶとがあるのです。胸当ては、心を守ります。

「心を見守れ、いのちの泉はこれから湧く。」(箴言 4:32)

「知恵のある者の心はその口を賢くし、」(箴言 16:23)

私はその点で罪を示されます。でも、とにかく、心を守ってくれるのです。足に履くのは、平和の福音。それで備える。準備です。あなたはいつも、自分の中にある希望を答える準備をするのです。イエス・キリストにある救い、良い知らせです。

「良い知らせを伝える人の足は、なんと美しいことか。」(イザヤ 52:7)

そして、非常に興味深いのは、初見では誤解されるかもしれませんが、彼は「信仰の盾」について語っています。そして、信仰の盾についてこう言います。「これらすべての上に信仰の盾を取りなさい。」どういう意味ですか？ 武具の他の部分よりも、盾が一番重要ということですか？ いいえ、彼が言っている

のは、当時、彼らはそうしていたはずですが。盾は当時、木と金属でできていて、木を水、つまり御言葉に浸し、それらは、”さねはぎ”でした。そして、彼らが”全員集まると”全員で上に盾をあげ、全部合わさって封鎖し、侵入不可の要塞を作り上げます。すると敵が、水ではなく火をつけて矢を放っても、貫通しません。実際、消されて中に入りません。これが話の向かう先です。あの獅子がいます。

「あ～、あの盾を見てみろよ。可愛いじゃん。あ～武具を着てるんだね。棚に収まるサイズじゃない。悪くないね。またいい靴だよ。 ”平和”てか。」そして、一人でいたい人がいて、群れから外れて迷い込んでいます。するとあの獅子が、「待て。待機だ。」その人は盾を持っていますよ。しかし、それが何の役に立つでしょう？ ええ彼はそれを自分の上にあげることができますが、露呈しています。ちなみに、補足しますと、背中に武具はありません。つまり、逃げられません。おお、あなたは立つ。あなたは逃げない。逃げたら終わりです。走ったら終わり。韻を踏んでますね。ということで、ここで置いておきます。立っていても、何より盾が要塞になって一緒に固まっていなければ、一人で外に出れば、敵が捕えます。敵に捕まります。それが敵の仕業です。それがどのようなもので、どう聞こえるかを紹介します。あなたは本当に大変な思いをしています。

「彼らは私が経験していることなど気にも留めないし、私は教会に行って、見せかけの笑顔、クリスチャン・スマイルをする気にもなれない。」

今日ここに来たとき、一緒に駐車場に入らなかった人です。それでやってみました。正面玄関には、とても興味深いものがあります。来られた人の顔が変わります。

「あ～私には無理だ。本当に苦勞していて、誰にも言えない。」そこに敵がいます。「ええ、そうですね。行くのを止めれば？ ねえ、しばらくおとなしくしていればいいよ。」あなたはそうしてしまう。敵が捕えるのには、長くはかかりません。以前も言いましたが、これで締めくくります。

この場所で、説教壇と会衆席の間ではなく、あなたとあなた、会衆席と会衆席の間で、より多くの働きが行われていることをご存知ですか？

説明しましょう。私たちが信者の体として集まり、共に組み立てるとき、「へブル人への手紙」を覚えていますか？ 集まるのではなく、組み立てるのです。私たちは機能体なのです。体のすべての部分が機能し、組み立てられれば、信者の体が機能するのです。この時計のように、すべての部品がただ集まっているだけでは、機能しません。起動しないし、動作しません。何の役にも立ちません。しかし、私たちがキリストの体として集う時、組織ではなく、機能的で動作可能な生命体になります。キリストの体は生きた生命体です。ですから、信者の体が集まっているときは、私たち人間の体と同じで、身体的に、私たちの体の中の細胞は、集まる必要の細胞があると分かっています。私たちが怪我をしたら、釘を打つのに親指を叩いたら、全身が親指を助けに来てくれますよね。私たちは愛情を注ぎます。キスして、話しかけます。

「大丈夫だよ～。」—(笑)— それが健康体というものです。不健康な体を知っていますか？ 癌と呼びます。体を攻撃し、全身に広がります。ですから、健全な体が集まっていれば、私たちはキリストの体であり、サタンはあなたをそこから遠ざければ、その恩恵を受けられないことを知っています。教会に来ると、再度説教壇から会衆席だけではなく、神が知識の御言葉を与えたあの兄弟、あの姉妹があなたに語りかけます。その人たちが知らないうちに、何か言ったり、励ましたり、一節を伝えたりします。

「主が私の心に置かれたのです。あなたのために祈っていました。あなたが苦勞しているのは知っています。」「詩篇」を引用するかもしれません。そして、あなたは「あーっ」とも傷ついた心を心地よく癒す鎮静剤です。そして、時に背中をポンと叩いたり、ただ祈ったりする。「あなたのために祈らせて。兄

弟/姉妹。」ええ、敵はそれを知っていて、あなたをそこから切り離そうとします。彼らがするのは、これが敵の戦争行為です。旧約聖書、木曜夜の「エレミヤ書」の学びでこの話をしましたが、彼らが街を占領する方法を知っていますか？ カルデア人が今正にそれをやっています。ちなみに今週のエレミヤ書、いや今週は感謝祭でお休みですが、来週です。バビロニア人がユダに帰ってきます。お知らせしておきます。来週です。彼らは街を包囲し、街への水と食料供給を断ち切りました。あとは、時間の問題です。貯水池は今、すべて空っぽで、泥だけです。彼らは倉庫に残っているパンで生活しています。彼らは水だけで生活し、生き残っています。残っているどんな水でも。でもそう、それが敵がする事です。それがバビロニアがユダにする事です。彼らは水源を断たれ、そして捕えられます。それが、私たちの人生において敵が行うことです。敵は、神の御言葉の水を断つ。敵は、フェローシップを断ち切る。

「使徒の働き 2 章 42 節」クリスチャンの人生、教会の人生というテーブルの 4 本の脚です。

- 1) 使徒たちの教え、御言葉。
- 2) フェローシップ。
- 3) 共にパンを裂き（聖餐式）
- 4) 祈ること。

敵はそれを断ち切ることが出来れば、命のパンの供給が絶たれるのは時間の問題だと知っています。神の御言葉という水を断ち切る。フェローシップ、パン裂きを断ち切る。祈りを断ち切る。あなたはもう終わりです。敵はそれを知っています。敵はあなたにそれを知られたくありません。なぜなら、あなたは屠られる子羊のように、彼の獲物となるだけだからです。不必要にも、不必要にも、不必要にも。では、もう時間がありません。カポノ、上がってきてください。皆さんご起立ください。祈りと賛美で締めくくります。ご忍耐感謝します。最善を尽くしました。ここから先は、聖霊にお任せします。

天の御父よ、本当に感謝します。主よ、あなたは心を知っておられます。あなたは心を見られます。私たちは外見しか見ませんが、あなたはこの教会にいるあるいはオンラインで見ている中で心が傷ついている人を知っておられます。あなたは、その苦勞や逆境、苦しみ、苦悩を知っておられます。あなたは気にかけておられます。あなたは、不安や恐れを全てを知っておられます。ですから主よ、今日のこの箇所は、再び、あなたがペテロに靈感を与え書かせられたものです。まず感謝します。2000 年以上たった今の世代へ、ペテロにこの文章を書かせて下さった事を。私たちの生活にピッタリの御言葉です。主よ、ここから先は聖霊の御力でお願いしたいのです。特に、傷ついている人、大変落胆している人、本当に大変な経験をしている人たちに。逆境が厳しく、苦しみは辛いです。主よ、どうか気にかけて下さいますように。今ここで、私たちとあなたとの出会いがありますように。主よ、ありがとうございます。私たちがあなたにすべてを捧げることができる事、そしてあなたが私たちをととても気にかけて下さっている事を。主よ、私たちはあなたをととても愛しています。心から感謝します。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7